

てをつなご

2017.Autumn vol.116 年4回発行

CONTENTS

Awesome NPO 嶺北の注目NPO

NPO法人 ONEれいほく
事務局長 林 利生太さん

NPO U-30

30歳以下のNPOスタッフインタビュー
土佐町在住 近藤 瀨文さん

高知の
つながり

てをつなご

発行・編集 高知県ボランティア・NPOセンター

〒890-8567 高知市朝倉1375-1 高知県立くし交流プラザ1F 高知県社会福祉協議会内
Tel 088-850-9100 Fax 088-844-9443 E-mail kvnc@pippikochi.or.jp

NPO U-30 インタビュー

高知県の30歳以下の
NPOスタッフへの
インタビューです。

- お名前を教えてください。
近藤瀨文です。土佐町に住んでいます。
- 何年生まれですか？
1997年生まれの20歳です。
- 瀨文さん。お名前の由来は？
生年月日が7と関係ありまして。それと父親がウルトラセブンが好きで。(笑)
- お若いんですけどすでにご結婚されてると伺いましたが？
はい、子どもも2人います。
- 所属団体は？
土佐町社会福祉協議会に勤務しています。プライベートではNPO法人ONEれいほくで活動しています。
- ONEれいほくでの役割は何ですか？
副代表理事です。(無償)
- どんな経緯で関わるようになりましたか？
代表理事の矢野大地さんに出会ったことがきっかけです。
- 活動をしていて楽しいことは何ですか？
地域の外からたくさんの方々が来て一緒に活動すること。
- 活動をしていて大変なことは何ですか？
「だいちハウス」が遠い…(笑)。他には特にないです!!



- これまでの人生で、岐路や転機だと思えることは何ですか？
矢野大地さんに出会ったこと。
- 特技は何ですか？
剣道です。
- 嶺北地域で好きな場所はどこですか？
土佐町の石原です。(実家があるから)
- これからやってみたいことを3つ教えてください。
・嶺北の木材を使って起業すること
・海外で学ぶこと
・地域を出た若者が帰ってこられる場を作ること
- 好きな言葉は何ですか？
「守破離」です。

高知県ボランティアNPOセンターからのお知らせ

今号の表紙を飾ってくれたONEれいほくの林さんが実行委員長を務める「こうちNPOフォーラム2017 若者×地域=∞ ~新しい生き方発見~」が11月25日(土)に県立くし交流プラザで開催されます。みなさん、ぜひご参加ください!



お申し込み
お問い合わせ

高知県ボランティア・NPOセンター
電話: 088-850-9100 E-mail kvnc@pippikochi.or.jp

若者が 集まる拠点 in 嶺北

嶺北地域は本山町、大豊町、土佐町、大川村の4か町村からなる過疎・高齢化が進む高知県北部の山に囲まれた地域。ここで活動するNPO法人ONEれいほくは、インターネットによる発信と受け皿となる拠点(シェアハウス)を整備し、全国から多くの若者を地域に呼び込むことに成功している。ONEれいほくの活動によって、嶺北地域が若者に新たな価値観を与えてくれる場所へと変化しようとしている。

だいちハウス(本山町北山乙)

ONEれいほくの代表理事矢野大地さん(25)が主宰するシェアハウス。コンセプトは「田舎暮らしの家」。本山町でも標高の高いところに位置し、隣家まで500m。周りにはただただ雄大な自然が広がっている。しかし、ここにも多くの若者が集まり、開設後1年でのべ700人もの若者が訪れたという。



ぶんだハウス(本山町北山乙)

ONEれいほくの活動に共感し、東京から移住してきた石綿文太さん(22)が主宰するシェアハウス。だいちハウスのすぐ下にある。



わんく(本山町北山甲)

ONEれいほく第4のシェアハウスとしてたいま建設中。コンセプトは「暮らして学ぶ」。定員4名で入居期間は1年。メンター(指導者)も付く。ここで講座なども開催する予定。



ハヤシハウス(大豊町高須)

ONEれいほく事務局長林利生太さんが主宰する「つながる家」をコンセプトとするシェアハウス。大豊ICを降りて3分ほど、有名な「ひばり食堂」のすぐ上。新しい暮らし方や働き方を求め、全国から毎日のように若者が訪れる。



来た時からあったという歴史を感じさせるLPレコードの数々。

すでにれいほく田舎暮らしネットワークさんが活動してくれていたおかげで本当に助かります!

「ONEれいほく」さんの活動によって20代の若い単身者が移住するという新しい流れが生まれています。これからは地域の方たちとのつながりを大切にしながら、若い力で嶺北を元気にしてもらいたいですね。



NPO法人 ONEれいほく田舎暮らしネットワーク事務局長 川村 健さん

※NPO法人れいほく田舎暮らしネットワーク(土佐町田井) 平成19年から嶺北地域への移住促進の活動をはじめ、平成24年に法人化。移住者の多くは30~40代の子育て世代。過去5年間ほどの移住実績は300件を超過。同法人の行う移住者への丁寧なケアは、移住後の高い定着率となって表れている。

Tosa

Otoyo

早明浦ダム湖

吉野川

本山町役場

大豊町役場

徳島自動車道

▶▶▶ わかもの×地域×NPOの第2回目は、嶺北地域で活動をしているNPO法人ONEれいほく。ONEれいほくは、平成26年設立。嶺北を拠点に“若者が希望を持てる社会をつくる”というビジョンを掲げ活動をしている。メンバーは20代の若者が中心。SNSやブログで発信される彼らの活動は共感を呼び、全国各地から若者が嶺北を訪れている。事務局長の林 利生太さんにお話を聞いた。



NPO法人ONEれいほく 事務局長 林 利生太さん [22歳]

▶ **自分を見つめ直した時間**

- こんにちは。
こんにちは。
- 林さんは高知の出身ですか？
いえ、兵庫です。高知大学の学生なんですけど、昨年から休学中です。
- NPO活動のために休学を？
最初はそうじゃないんです。僕は理科の教員志望なんですけど、自分の本当にやりたいことはなんだろう、このままでいいのかなって迷っていて、思い切って休学して自分を見つめ直そうと思ったんです。休学したらとにかく遊びたいと思っていました。そんな時にネットで見つけた柏島の綺麗な海に魅せられて、ここで遊ぶぞ！って決めました。そこでNPO法人黒潮実感センターのことを知って、関わることになったんです。
- 柏島で過ごした時間はいかがでしたか？
最初はそこでゴーグルの油取りを延々やっていたんです。休学までして何でこんなことやってるんだろうと思うときもありました。でも、違う環境に身を置くことで自分の人生についていろいろと考えることができたんです。それと、こちらでやってる自然をフィールドにした教育にもすごく感銘を受けて、最初は1カ月のつもりが気がつけば2カ月半もお世話になっていました。センターの神田先生には本当に感謝しています。休学したことは間違っていなかったと思えました。

▶ **つながる家・ハヤシはうす**

- 林さんの主宰する「ハヤシはうす」について教えてください。
コンセプトは「つながる家」です。2016年の10月にオープンしました。JRの駅も近くにあるし高速のIC降りてすぐなんでアクセスしやすいんで、気軽に訪れて欲しいですね。特に時代のねじれの中で苦しんでいる若い人たちがここに来て、いろんな人と出会って、いろんな生き方があるんだっていうのを知ってもらいたいです。ここで人生にゆとりを感じてもらいたいというか。そのために、だいちハウスもぶんだハウスもそうなんですけど、宿泊施設としてお金を取らない。できるだけハードルを下げ、とにかく訪問しやすい環境にしたいと思っています。



この日はハヤシはうすでONEれいほくのミーティングが行われていた。その横でPCを打っている男性は神奈川から来たというプログラマーの青年。彼曰く「嶺北はプログラマーの聖地の一つ」なのだとか。「若者たちが世の中を動かそうとしている魅力」に惹かれてここを訪れた。



もともとは郵便局だったという建物。築100年以上とは思えないモダンな外観はアルプスの山小屋をイメージして作られたという。



裏山の畑でナスを収穫する林さん。

▶ **ONEれいほくで活動を始める**

- その後なぜ嶺北に？
大学の先輩の矢野（ONEれいほく代表理事）に声をかけられて、大豊町の碁石茶の生産拡大のために全国にメンバーを呼び掛けて結成された「碁石茶親衛隊」に参加したんです。活動している中で、若者だからこそできる仕事を田舎で生み出していくことにめちゃくちゃワクワクを感じました。それがきっかけですね。
- ONEれいほくの活動を教えてください。
僕たちは、若者が関わることを通じて嶺北のような過疎少子地域に新たな価値の創出や希望など画期的な変化を生み出していくことを目指しています。そのために、農業や教育などさまざまな視点から地域と一緒に盛り上がる活動をしています。シェアハウスの運営もその一つです。
- シェアハウスが3つもあるんですね？
はい、本山に矢野がやっている「だいちハウス」と東京から来た文太君の「ぶんだハウス」があって、大豊に僕の「ハヤシはうす」が、もう一つが建設中の「わんく」。10月に完成予定です。
- 4つめのシェアハウスができるんですね。わんく？
「うちんく」って意味の方言です（笑）。「暮らしで学ぶシェアハウス」をコンセプトに考えています。

ONEれいほくの活動

- 拠点事業 (シェアハウス)**
- 碁石茶親衛隊**
第1期親衛隊の10名中7名が嶺北に移住
- 耕作放棄地の田んぼを復活!**
- 半農半X インターンシップ**
生活の中に“農”を取り入れ、自分だけのナリワイ“X”を見つける
- 研修、講座の開催**

▶ **若返り猟師さん**

- ONEれいほくの活動で地域にはどんな変化がありますか？
猟師さんが若返りました。（笑）
- 猟師さんが？（笑）
そうですね。僕たちの活動を通じて20代、30代の人たちと関わるようになって、若者の新しい価値観に触れたり、考えを共有したりしてどんどん若返っていくんです。僕らと接することが刺激になってくれるのかなって。あと、農家の方たちも少しずつ変わってきてるんじゃないかと思います。
- 農家の方もですか？
はい。農家さんの働き方なんですけど、僕たちから見たときに、生産性や効率のあがるもつと違う方法があるんじゃないかっていうのがあって、そういうところを僕たちの価値観も交えながらお話しさせてもらってます。そしたら農家さんも「じゃあこうしようか」って応えてくれて。でもそれって農家だけの話じゃなくて、ストレスを抱えて仕事をしている都会の人たちも一緒なんですよ。
- 人生の価値をどこに置くのか、ですね。
はい。働き方もそうですが、今は常識が通用しない時代だと思うんです。「暮らし」であつたり、「若さ」であつたり、そういう世の中の当たり前だと思っていることを見直していくのも僕らのミッションだと思っています。



▶ **それは本当に自分の価値観なのか？**

- 同世代の若者へメッセージをお願いします。
そうですね、僕も含めてなんですけど、自分たちは教育された人間であるということ認識しておくことは大事なかなって思います。
- というと？
つまり、君の中の価値観は本当に君自身の価値観なの？大人たちに教えられて身に付いたものかもしれないよ？ということです。それに気が付いたら、本当の自分とは何なのか、本当に自分のやりたいことは何なのかをもう一度考えてみて、また新しい一歩を踏み出せるんじゃないかと思います。
- 林さんは将来どうしているでしょう？
まったく分かりません（笑）。実は大学をもうやめようかって迷っていた時期もあったんですけど、自分なりにいろいろ考えてみて、復学してちゃんと卒業はしようって決めました。でも復学しても活動は続けていきたいと思っています！

● NPO法人 ONEれいほく
高知県長岡郡本山町北山乙301番地
TEL 070-5661-8512
E-mail onereihoku@gmail.com
URL <http://onereihoku.org/>

